

秘

海軍公報 第四九八九號

司令官

令第三二一號

○令達

參謀長

右警備海防艦ト定メラル

佐世保鎮守府豫備海防艦
海防艦 擇 捉
海防艦 笠 戸
舞鶴鎮守府豫備海防艦
海防艦 占 守
海防艦 國 後
海防艦 八 丈

舞鶴鎮守府豫備敷設艇
敷設艇 七 隻

參謀副長

右役務ヲ解カル

昭和二十年四月十日

横須賀鎮守府在籍
第五十三號海防艦
第百四十四號海防艦

副官

右帝國驅逐艦籍ヨリ除カル

横須賀鎮守府在籍
吳鎮守府在籍
驅逐艦 野 風
驅逐艦 松

秘海軍公報 第四九八九號 昭和二十年四月十九日

昭和二十年四月十九日(木)
海軍大臣

横須賀鎮守府在籍

伊號第三百六十二潛水艦

佐世保鎮守府在籍

伊號第三百六十八潛水艦

伊號第三百七十潛水艦

伊號第三百七十一潛水艦

舞鶴鎮守府在籍

呂號第四十三潛水艦

右帝國潛水艦籍ヨリ除カル

佐世保鎮守府在籍

砲艦 唐 津

右帝國砲艦籍ヨリ除カル

吳鎮守府在籍

第五十三號海防艦

第百四十四號海防艦

佐世保鎮守府在籍

海防艦 昭 南

海防艦 屋 久

舞鶴鎮守府在籍

第九號海防艦

右帝國海防艦籍ヨリ除カル

受領
昭和二十年四月二十六日
舞鶴鎮守府

1218

四二一

吳鎮守府在籍

第一百十四號 輸送艦

右帝國輸送艦籍ヨリ除カル

舞鶴鎮守府在籍

敷設艇 成生

右帝國敷設艇籍ヨリ除カル

横須賀鎮守府在籍

特務艦 知床

右帝國特務艦籍ヨリ除カル

昭和二十年四月十日

海軍大臣

内令第三一三號

昭和十八年内令第一八三三號別表申左ノ通改正

昭和二十年四月十日

海軍大臣

佐伯防備隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

下關防備隊

第六十七號(横)
第二百四十六號(阪)

第一南遣艦隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百十七號(横)」及「第二百四十六號(阪)」ヲ削リ魚雷艇ノ欄「第四百三號(佐)」及「第四百五號(佐)」ヲ削リ
「第四百八號(佐)」ニ改ム

馬公方面特別根據地隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

上海方面
根據地隊
第二百二十號(吳)
第二百四十號(阪)

第二十五根據地隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百二號(吳)」ヲ、魚雷艇ノ欄「第九號(横)」ヲ削ル

第二十七特別根據地隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第六十號(横)」ヲ削ル

第十六警備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百二十號(吳)」及「第二百四十號(阪)」ヲ削ル
(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

内令第三一四號

第二百二號驅潛特務艇

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メタル處之ヲ削ル

第九號魚雷艇

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メタル處之ヲ削ル

第四百六號魚雷艇

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メタル處之ヲ削ク

昭和二十年四月十日

海軍大臣

内令第三一五號

特設監視艇隊編制申左ノ通改定セラル

昭和二十年四月十日

第一監視艇隊ノ項中「第五福丸」、「勝榮丸」、「第三朝洋丸」、「第二十八南進丸、第三十五南進丸」、「高貴丸」、「富士丸」、「第五盛進丸、」及「第三三德丸、」ヲ削ル
 第二監視艇隊ノ項中「第三寶松丸、」及「第五萬榮丸、」ヲ削ル
 第三監視艇隊ノ項中「第五寶榮丸、」、「第三十六南進丸、」、「第十七長進丸、」、「榮福丸、」、「第三號昭和丸、」第八重代丸、「第三共和丸、」及「第一榮福丸、」ヲ削ル

(内令提要卷一、一五一頁参照)

内令第三一六號

昭和十八年内令第二五六號別表申左ノ通改正ス

昭和二十年四月十日

海軍大臣

横須賀防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「通海丸(横)」ヲ、特設監視艇ノ欄「第五盛秋丸(横)」ヲ削ル
 伊勢防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「和風丸(横)」ヲ削ル
 佐世保防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「長門丸(佐)、烏來丸(佐)」及「龍井丸(佐)」ヲ、特設監視艇ノ欄「第三南陸丸(佐)」及「第五大成丸(佐)」ヲ削ル
 大島防備隊ノ項特設捕獲網艇ノ欄「柏丸(佐)」ヲ削ル
 第二南遣艦隊ノ項ヲ削ル

第十二特別根據地隊ノ項ヲ削ル

第二十三特別根據地隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「肥後丸(佐)」及「鶴丸(佐)、大鷹丸(佐)」ヲ削ル
 第二十六特別根據地隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「圖南丸(吳)、第二號海王丸(吳)、第三號海王丸(吳)」ヲ削ル
 第二十八根據地隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「島根丸(吳)、立山丸(吳)、白山丸(吳)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

内令第三一七號

汽船
 柏
 漢江丸
 同 春川丸
 同 通海丸
 同 和風丸
 同 海王丸
 同 海王丸
 同 海王丸
 同 立山丸

右特設捕獲網艇トシ佐世保鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク
 右特設驅潛艇トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

○通牒

官房艦機密第九八六號

昭和二十年四月六日

海軍省副官

各鎮守府 參謀長
各警備府 參謀長
海軍艦政本部長 殿

諸公試諸試驗一部省略實施要領廢止ノ件通知

昭和十九年三月八日官房艦機密第一四五二號ハ之ヲ廢止セラレ候

軍務三機密第二九一號

昭和二十年四月十六日

海軍省軍務局長

海軍省教育局長
海軍省醫務局長
海軍省經理局長
海軍省航空局長
海軍省艦政本部長
海軍省施設本部長
各鎮守府 參謀長
各警備府 參謀長
海軍監理部長 (首席監理官)

空襲罹災中小工場ノ應急復舊ニ關スル件照會

首題ノ件ニ關シ今般別紙寫ノ通知有之候處臨時生産防衛對策中央本部ニ於ケル工場事業場ノ應急復舊ノ一般の方針ニ關スル

秘海軍公報 第四九八九號 昭和二十年四月十九日

關係各省間ノ申合(四月九日附軍務三機密第二四六號四月十三日秘海軍公報第四九八三號掲載參照)ノ趣旨ニ則リ各地方長官共ノ他關係各機關ト協力シ首題措置實施ニ關シ遺憾ナキヲ期セラレ度

(別紙寫)

防業二〇發第五九號

昭和二十年三月二十九日

防空總本部次長

各都廳府縣長官殿

空襲罹災中小工場ノ應急復舊ニ關スル件

空襲ニ因ル工場事業場ノ應急復舊等ニ關シテハ關係地方官廳ト連繫協力シ夫々迅速適切ナル指導ヲ加ヘラレツツアル處最近ノ空襲ニ依リ相當多數ノ工場事業場ニ被害發生シ企業再整備等ノ措置及工場事業場ノ分散疎開計畫トノ關聯モアリ去就ニ迷ヒ生産ヲ阻害シツツアル狀況ニ有之候ニ付中小工場(防空法施行令第十六條ノ四ノ規定ニ依ル各省大臣ノ指定工場ヲ除ク)ノ應急復舊(轉活用)ニ關シテハ概ネ左記ニ依リ貴官ニ於テ關係地方行政協議會長、軍需監理部長等ト連絡ノ上迅速強力ニ復舊轉活用ノ方途ヲ講ジ以テ戰時生産ノ維持ニ關シ格段ノ御努力相成度此段及通牒候也

追而本件ニ關シテハ軍需省トモ協議濟ニ有之申添候

記

空襲被害後速ナル時機ニ陸海軍、軍需監理部等地方關係官

四一五

首題ノ件ニ關シ今般關係各省間ニ於テ別紙ノ通申合決定近ク軍需省企業整備本部長ヨリ各地方長官宛正式通牒ノ豫定ニ有之候條左記事項留意ノ上指導相成度

記

- 一 本措置ハ從來ノ回收機關ヲ經由スル間接轉用方式ニ依ルノ外緊急利用ニ應ジ地方長官ノ認定ニ依リ當事者間ニ於テ直接轉用シ得ルガ如ク簡素化スル等迅速處理ヲ旨トセルモノナリ
- 二 本要領中地方長官トハ對象物件所在地ノ所管地方長官ヲ謂フ
- 三 海軍關係ノ轉用要領ハ各海軍監督長（首席監督官）ノ證明書（直接授受ノ場合ハ緊急需要證明書及當事者相互間ノ讓渡（受）同意書）ヲ附シ提出セシムルコト
- 四 國民更生金庫ト産業設備營團トノ取扱區別ハ戰災等ニ依リ事業主方其ノ業ヲ廢止スルニ至リタル場合ヲ前者右以外ハ後者トス
- 五 本要領ノ取扱ハ客年四月九日附兵備二機密第七八號並ニ五月三日附兵備二機密第九四〇號ニ依リ現行物件轉用方式ニ準ズルモノトス
- 六 本件實施ニ際シ本年三月二十四日附軍務三三七號被爆ニ依ル燒失地域内屑鐵等處理ニ關スル件トノ關聯ヲ考慮轉用物件ノ戦力化促進ニ關シ特段ノ措置ヲ講ズルコト

（別紙）

空襲等ノ災害ニ伴フ産業設備ノ買受等ニ關スル件

秘海軍公報 第四九九號 昭和二十年四月十九日

一 空襲、震災等ノ災害ニ因ル罹災工場事業場ニシテ復舊（疎開復舊ヲ含ム）セザルモノト決定セラレタルモノニ屬スル産業設備ハ原則トシテ所有者ノ申出ニ應ジ産業設備營團（以下營團ト稱ス）之ヲ買受クルコト

二 前號ノ産業設備トハ

（一）機械、器具、工具、備品其ノ他ノ事業用品ニシテ原則トシテ金屬ヲ主タル材料トスルモノヲ謂フコト但シ所有者ニ於テ處分困難ナルモノ等已ムヲ得ザルモノニ付テハ金屬ヲ主タル材料トセザルモノヲモ含ムコト

（二）屑化シタルモノ（昭和十九年十二月十六日附企作第四七五號企業整備本部長通牒ニ依ルモノヲ謂ヒ大修理ヲ爲スニ非ザレバ原用途ニ使用シ得ザルモノヲ含ム）及國民更生金庫（以下金庫ト稱ス）ニ於テ買受クベキモノ（昭和十八年十月十二日附一八企第七八四號商工省企業局長通牒及昭和十九年七月十二日附一九總局第三二四五號農商省總務局長通牒參照）ヲ除クコト

右ノ屑化シタルモノト然ラザルモノトノ認定ハ當該設備所在地ヲ管轄スル地方長官之ヲ行フコト

三 地方長官ハ營團又ハ金庫方本件ニ依リ買受クベキ産業設備（屑化シタルモノ及金屬ヲ主タル材料トセザルモノヲ除ク）ニシテ未ダ讓渡移動ノ制限無キモノニ付テハ昭和十九年軍需省告示第三百五十二號ニ基キ遊休又ハ不要不急ノ設備又ハ機器トシテ認定ヲ行フコト

前項ニ依リ認定シタル産業設備ニ付地方長官必要アリト認めタルトキハ第一號ノ申出ヲ俟タズ所有者ニ對シ營團又ハ金庫ニ對スル讓渡ノ申込ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得ルコト
(金屬類回收令施行規則第九條參照)

四 營團ニ於テ買受クル産業設備ノ評價ハ「産業設備營團買受産業設備ノ評價方法基準(一般)」(特別基準ノ設定アルモノニ付テハ該特別基準)ヲ適用スルモノトシ當該設備ニ類似スル設備ニ付特別基準ノ設定アル場合ニ於テハ之ヲ準用スルコト但シ所有者及其ノ同業者ノ分擔割合ハ之ヲ零トス

五 營團ハ前號ノ評價ニ際シ戰時災害保險ニ加入セル設備ニ付テハ支拂保險金額ニ應ジ評價額ヲ斟酌スル等簡易機宜ノ措置ヲ講ズルコト尙全損ニ近キ損害ヲ被リタルモノニ付テハ保險會社ヨリ保險金額ヲ支拂フト共ニ保險ノ目的ヲ保險會社ニ交付セシムル便法ヲ採リ得ルコト

六 本件ノ取扱ニ付テハ迅速ニ處理シ特ニ對價ノ支拂ニ付テハ相當額ヲ速ニ概算拂スル様措置スルト共ニ罹災者ノ感情ヲ刺戟スルガ如キコトナキ様特ニ注意スルコト

七 回收機關(營團、金庫及金屬回收統制株式會社ヲ謂フ以下同ジ)ニ於テ買受ケタル産業設備中轉用シ得ルモノ(素材トシテ使用スルモノヲ除ク)ニ付テハ地方長官ニ於テ轉用先ヲ決定シ當該回收機關ニ對シ指示スルコト但シ地方長官ニ於テ特ニ必要アリト認めタル場合ニ於テハ回收機關ニ供出スルコト無ク地方長官ノ發行スル轉用證明書ニ依リ當事者間ノ直接

授受ヲ爲シ得ルコト

回收機關ニ對スル轉用指示及轉用證明書發行ノ方式ニ付テハ地方轉用措置ニ關スル現行ノ例ニ依ルコト

○ 雜 談

○本日海軍公報發行セズ

秘

海軍公報 第四九九〇號

〇令 達

内令第三一九號

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定ム

昭和二十年四月十一日

海軍大臣 臣

第九十號哨戒特務艇

内令第三二〇號

特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年四月十一日

海軍大臣 臣

第三監視艇隊ノ項中「海晃丸」ノ上ニ「第九十號哨戒特務艇」ヲ加フ

(内令提要卷一、一五一頁参照)

内令第三二二號

舞鶴鎮守府警備潜水艦

呂號第六十二潜水艦

右練習兼警備潜水艦ト定メラル

昭和二十年四月十二日

海軍大臣 臣

内令第三二二號

潜水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年四月十二日

海軍大臣 臣

第三十三潜水隊ノ項中「伊號第二百一」ノ下ニ「呂號第六十二」ヲ加フ

(内令提要卷一、七〇頁参照)

内令第三二三號

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラル

舞鶴鎮守府在籍

第百五十八號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

昭和二十年四月十三日

海軍大臣 臣

官房軍機密第四〇五號

昭和二十年四月十九日

海軍大臣 臣

各鎮守府司令長官殿

秘海軍公報 第四九九〇號 昭和二十年四月二十日

四一九



1226

靖國神社臨時大祭ニ代表者參列ノ件訓令

今般舉行ノ靖國神社臨時大祭ニ際シ合祀者所管各部代表者トシテ招魂式及大祭ノ儀ニ參列ノ爲左記ニ依リ部下高等武官一名派遣方取計フベシ

追テ代表者ノ官氏名來四月二十三日迄ニ報告スベシ

記

- 一 代表者ハ四月二十四日午後五時迄ニ靖國神社境内記念殿ニ出頭所要ノ指示ヲ受ケ同二十五日式終了後退京ス
- 二 代表者ハ成ルベク支那事變竝ニ大東亞戰爭ニ直接關與セルモノヨリ之ヲ選出ス
- 三 服裝 第一種軍裝（長劍又ハ軍刀）略綬
- 四 所要旅費ハ臨時軍事費、臨時軍事費、雜給及雜費、出張旅費支辨トシ請求ヲ俟テ別途配付ス

官房需機密第一二七號

當分ノ間潜水艦ニ於テ甲板上ノ職務ニ從事スルトキ貸與スル防水作業服及護謨長靴ハ必要ニ應ジ航空夏衣袴、航空夏帽及半長靴ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

昭和二十年四月十九日

海軍大臣

○通牒

官房軍機密第四〇六號

昭和二十年四月十九日

在京各廳長殿

海軍次官

靖國神社臨時大祭及例大祭ニ關スル件通牒

今般靖國神社臨時大祭及例大祭舉行相成候ニ付テハ在京諸官ノ參列ハ左記ニ依ル義トシ知相成度

記

月日	參列者	服裝	參著時刻
四月二十四日 (招魂式當日)	一 合祀者所管各部ノ代表者 一 在京ノ各官衙、學校及部隊ヨリ代表者一名(高等武官)	第一種軍裝 (長劍又ハ軍刀)略綬	午後六時二十分迄ニ拜殿ニ參著
四月二十五日 (臨時大祭)	一 海軍大臣 一 合祀者所管各部ノ代表者 一 在京ノ各官衙、學校及部隊ヨリ代表者一名(高等武官)	同	午前八時三十分迄ニ拜殿ニ參著(午前九時勅使參向)
四月三十日 (例大祭)	一 海軍大臣 一 在京ノ各官衙、學校及部隊ヨリ代表者一名(高等武官)	同	午前八時三十分迄ニ拜殿ニ參著(午前九時勅使參向)

官房軍機密第四〇〇號

昭和二十年四月十九日

海軍省 副官

各廳長 殿

南西諸島(大島以南)並ニ臺灣派遣海軍部隊

ニ對シ軍事郵便取扱開始ノ件通牒

首題ノ件四月十日ヨリ實施セラレ候

追テ該部隊ニ對スル郵便物ノ名宛記載方及地區別符號等別途指定セラルベク候

軍務一機密第二八五號

昭和二十年四月十九日

海軍省軍務局長
海軍省軍需局長

關係各廳長 殿

自動車用燃料供給區分ニ關スル件申進

四月一日以降各部自動車ハ特定ノモノヲ除キ總テ航空兵器トシテ取扱ハルル豫定ノ處之ガ燃料ハ兵器ト兵器以外ノ特殊車輛トヲ問ハズ從來通部隊用ニ對シテハ兵備品ヲ、其ノ他ニ對シテハ通常物品ヲ供給セラルル義ト了知相成度
・尙代燃車ニ對スル燃料モ右ニ準ジ處理相成度

經物第一三號

昭和二十年四月十七日

關係各廳長 殿

海軍省經理局長

祕海軍公報 第四九九〇號 昭和二十年四月二十日

前金拂又ハ概算拂契約相手方ニ關スル件通知

昭和十七年經物第一三五號第一第四項ニ依ル首題ノ件別紙ノ通ニ有之候
(別紙ハ所要ノ向ニノミ之ヲ配付ス)

○ 雜 款

○本日軍極祕海軍公報第一一六號(乙配付)發行セリ
配付先

關係各司令部、横須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍人事部、
吳海軍工廠、關係各學校

四二二

秘

海軍公報 第四九九一號

昭和二十年四月二十二日
海軍大臣官房

舞 4.29 舞 眞

○令 達

内令兵第一四號
左ノ通兵器ニ採用ス
昭和二十年四月十九日

海軍大臣官房
昭和二十年四月十九日

兵器名稱	記
三式二五番八號爆彈 一型	航本機密第三六八一號通爆=依リ九八式二五番陸用爆彈一型ヲ反跳爆撃用ニ改造セルモノ
同 右 一型改一	同右ヲ彈底發火裝置裝着可能ナラシメタルモノ
三式二五番八號通常爆彈	航本機密第一一九六三號通爆=依リ九九式二五番通常爆彈一型改一ヲ反跳爆撃用ニ改造セルモノ
三式八〇番八號爆彈 一型	航本機密第一〇一五三號通爆=依リ八〇番陸用爆彈ヲ反跳爆撃用ニ改造セルモノ
三式八〇番八號通常爆彈	航本機密第一一五五二號通爆=依リ八〇番通常爆彈ヲ反跳爆撃用ニ改造セルモノ

内令兵第一五號
昭和十七年内令兵第二六號中左ノ通兵器ヲ昭和二十年四月一日ヨリ之ヲ適用ス
昭和二十年四月十九日
第一號中火星發動機二五型ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

秘海軍公報 第四九九一號 昭和二十年四月二十一日

同 火星發動機二五甲型
昭和二十年四月一日
火星發動機二五型ニ高壓油ポンプ五型ヲ裝備可能ノ如クセルモノ

(参照) 昭和十七年内令兵第二六號ハ航空發動機名稱ノ件ナリ

内令兵第一六號

譽發動機一二型及二二型ヲ兵器ニ採用シ昭和二十年四月一日ヨリ之ヲ適用ス
昭和二十年四月十九日

海軍大臣

内令兵第一七號

昭和十七年内令兵第二六號中左ノ通兵器ヲ昭和二十年四月一日ヨリ之ヲ適用ス
昭和二十年四月十九日

第一號中譽發動機一一型ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

同 譽發動機一一型	昭和二十年四月一日	譽發動機一一型ノ高度性能ヲ向上セルモノ
同 譽發動機一二型	昭和二十年四月一日	十五試九號發動機改一〇一(NK911)ト稱シタルモノ(但譽發動機一二型性能ニ制限使用)

(参照) 昭和十七年内令兵第二六號ハ航空發動機名稱ノ件ナリ

四二三

内令兵第一八號
大星發動機二五甲型ヲ兵器ニ採用シ昭和二十年四月一日ヨリ之ヲ適用ス
昭和二十年四月十九日

海軍大臣

官房需機密第一二八號
海軍需部長ハ大東亞戰爭中艦需品經理規程第三條ノ規定ニ拘ラズ主計長主管艦需品備品兵器ヲ海軍學校在籍ノ下士官及兵ニ供給スルコトヲ得
之ガ整理手續ニ關シテハ海軍省需局長ヲシテ通牒セシム
昭和二十年四月十九日

海軍大臣

○通牒

軍需機密第二七九號
昭和二十年四月十九日

海軍省需局長

關係各廳長殿
各海軍學校在籍下士官及兵ニ兵器供給ニ關スル件通牒
官房需機密第一二八號ヲ以テ訓令相成候首題物品ノ整理ニ關シテハ昭和十九年軍需機密第三二四號通牒ヲ準用ノ上處理相成

度

(參照) 昭和十九年軍需機密第三二四號ハ艦需品兵器(兵食器)ヲ携行物件ニ指定供給ノ件ナリ(秘海軍公報第四六九七號)

○雜款

○試驗問題發送

高等科 經理術 特技章付與第二回銓衡試驗問題
衣糧術 經理術 特技章付與第五回銓衡試驗問題
普通科 衣糧術 特技章付與第五回銓衡試驗問題
(試驗施行期日昭和二十年六月一日)
右四月十日左記ノ通發送濟ニ付未着又ハ別ニ必要ノ向ハ最寄海軍人事部、警備府又ハ本校へ至急通知相成度

記

- 一 聯合試驗用ノモノハ各海軍人事部、警備府宛送付
 - 二 單獨施行豫定(艦船、戰地陸上部隊)所轄ニハ直送
 - 三 豫備トシテ單獨施行用試驗問題若干各海軍人事部、警備府宛送付
- 追テ規則改正等ニ依リ探點標準當然改正トナルベキ場合ハ適宜探點相成度
(海軍經理學校品川校)

○本日軍機秘海軍公報第一一七號(甲配付)發行セリ

○本日海軍公報發行セズ



海軍公報

第四九九二號

昭和二十年四月二十三日
海軍大臣官房

○令 達

達第七四號

燃料試驗規格中左ノ通改正ス

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

航空九一揮發油乙ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

航空九一揮發油(夏期用)

第三號ヲ左ノ如クスルノ外航空九一揮發油甲ノ規格ニ同ジ

三 分溜性状(試驗法第一二號甲第一法)

初溜溫度

一〇%溜出溫度

五〇%溜出溫度

九〇%溜出溫度

九七%溜出溫度

一〇〇%溜出溫度ノ和

攝氏 六〇度以下

攝氏 九〇度以下

攝氏 一二五度以下

攝氏 一八〇度以下

攝氏 二〇〇度以下

攝氏 二六〇度以上

達第七五號

雷艇二十五隻ヲ特務艇籍ニ編入シ左ノ通命名ス

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

命 名	舊 雷 艇 名
第千九百九號魚雷艇	第八號雷艇
第千九百十號魚雷艇	第十二號雷艇
第千九百十一號魚雷艇	第十三號雷艇
第千九百十二號魚雷艇	第七十號雷艇
第千九百十三號魚雷艇	第七十一號雷艇
第千九百十四號魚雷艇	第七十二號雷艇
第千九百十五號魚雷艇	第七十四號雷艇
第千九百十六號魚雷艇	第七十五號雷艇
第千九百十七號魚雷艇	第七十七號雷艇
第千九百十八號魚雷艇	第七十九號雷艇
第千九百十九號魚雷艇	第八十號雷艇
第千九百二十號魚雷艇	第九十一號雷艇
第千九百二十一號魚雷艇	第九十六號雷艇
第千九百二十二號魚雷艇	第九十七號雷艇
第千九百二十三號魚雷艇	第九十八號雷艇
第千九百二十四號魚雷艇	第九十九號雷艇
第千九百二十五號魚雷艇	第一百號雷艇
第千九百二十六號魚雷艇	第一百一號雷艇
第千九百二十七號魚雷艇	第一百二號雷艇

秘海軍公報 第四九九二號

昭和二十年四月二十三日

四二五

1231

陸軍省副官

海軍省副官殿

首題ノ件交通並ニ輸送ノ關係上別紙ノ通定メラレ關係軍宛通牒セラレタルニ付諒承相成度通牒ス

(別紙)

陸密第一一三九號

陸軍部隊編入中ノ者ヨリ海軍ノ學生(生徒)ニ採用セラレタル者ノ取扱ニ關スル件通牒

昭和二十年三月三十日

陸軍省副官

自今南方諸地域、支那、滿洲國(關東州ヲ含ム)、中部太平洋諸島、臺灣、南西諸島、小笠原諸島、東京都ノ大島、三宅、八丈各支廳内諸島竝ニ千島列島等ニ於ケル部隊ニ編入中ノ者ニシテ海軍ノ學生(生徒)ニ採用セラレタルモノニ付テハ昭和十九年陸密第一九三一號ニ拘ラズ特ニ定ムルモノノ外之ヲ海軍部隊ニ出頭セシメザルコトニ定メラレタルニ付依命通牒ス
追而本件關係部下部隊ニ徹底相成度

(參照) 昭和十九年六月十九日海軍公報(部内限)

教育機密第一八一號

昭和二十年四月二十日

海軍省教育局長

秘海軍公報 第四九九二號

昭和二十年四月二十三日

各領守府參謀長
聯合艦隊參謀長 殿

海軍下士官候補者教育ニ關スル件中改正ノ件
申進

昭和十九年教育機密第一四八號ニ依ル首題ノ件左ノ通改正セラレ候
「海軍下士官候補者」ヲ「海軍幹部練習生」ニ改ム
(内令提要卷二、四八四ノ二頁參照)

○雜 款

○機密圖書受領ニ關スル件

從來各部ヨリ海軍潜水艦部及海軍特攻部用トシテ送付セラレアリタル機密圖書ハ海軍特兵部用トシ四月十五日附受領セルモノトシ受拂關係ヲ整理相成度
(海軍特兵部)

○廳舎移轉

官 衙 名	移 轉 先	移 轉 日 日	記 事
横須賀海軍經理部 名古屋支部	愛知縣西春日井郡西春村西春國 民學校内	三月二日	旅行順路 名古屋鐵道大山線新名古屋驛ヨリ九・一軒西春驛下車徒歩西へ○・五三軒
第五百六船舶防除隊 (ウノ四八三)	横濱市神奈川區 桐畑三六青木國 民學校内	四月二日	旅行順路 横濱驛又ハ東神奈川驛下車 電話神奈川局四ノ二六九五

四二七

1233

○事務開始

事務所名	設置場所	事務開始日	電話	記事
廣島海軍監督官事務所岡山出張所松江分室	松江市殿町一九〇松江地方海軍人事務所	四月五日	松江一六三二	
第二百二號海防艦艇裝員事務所	長崎三菱重工株式會社海防艦艇事務所	四月七日		
第七艦隊司令部	第一護衛艦隊司令部	四月二〇日		

第八十三號海防艦艇裝員事務所 大坂市西成區北加賀屋町二一浪速船渠株式會社內 四月二四日 四月一四日上記の場所ニ移

○轉勤者赴任先
當隊ヘノ轉勤者ハ左ニ依リ神ノ池基地ニ向ケ赴任セシメラレ度
總武線佐原驛下車以後民營バス(佐原↓潮來)利用若クハ民船(佐原↓大船津)利用尙徒歩ナレバ潮來經由約六時間ヲ要ス
(第七二二海軍航空隊)

合同海軍葬儀執行

期日及時刻	大東亞戰爭戰歿者	喪葬管理者	場所	記事
五月五日 〇九三〇	故海軍少佐近藤壽男外諸勇士	舞鶴海軍人事部長	舞鶴海兵團	佛式
五月十日 一〇〇〇	故海軍中佐桐山勝三外諸勇士	富山地方海軍人事部長	東本願寺別院	同
五月十二日 一〇〇〇	故海軍技術大尉五木政雄外諸勇士	新潟地方海軍人事部長	新潟市公會堂	同
五月十四日 一〇〇〇	故海軍大佐村井貞敏外諸勇士	山形地方海軍人事部長	山形市第四國民學校	同

委員長
海軍航空本部
第五部長

幹事	員	委
海軍航空本部部長兼軍需省軍需官	東京芝浦電氣株式會社電子管製造所社員	海軍航空本部第五部第一課長
	日本無線株式會社社員	海軍航空本部第五部第二課長
	株式會社川西機械製作所社員	海軍航空本部部長兼軍需省軍需官 ⑦
	住友通信工業株式會社社員	海軍艦政本部部長
	松下電器産業株式會社社員	第一海軍技術廠材料部部長
		第二海軍技術廠部員
		軍需省航空兵器總局第二局電氣課長
		軍需省航空兵器總局第二局電氣課員
		海軍監督官兼軍需省軍需監理官(東京)
		海軍監督官兼軍需省軍需監理官(大阪)
		軍需省機械試驗所名古屋支所長

備考
 一 軍需省及各會社ノ者ハ海軍航空本部囑託トシテ本委員ヲ命ズルモノトス
 二 委員中⑦ハ幹事兼任トス
 三 本表ノ外必要ニ應ジ學識經驗アル者ヲ委員會ニ參加セシムルコトヲ得



海軍公報號外(郵便)

昭和二十年四月二十三日(月)
海軍大臣官房

○通牒

官房軍機密第二二〇號ノ二

昭和二十年四月二十二日

海軍省副官

各廳長殿

郵便物ニ關スル件通牒

昭和十九年官房軍機密第三一八號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規中左記ノ通改メラレ候

記

附録所在地區別符表(其ノ三)中ニ

種	子	島	イ四〇
屋	久	島	イ四壹
喜	界	島	イ四貳
大		島	イ四參
德	之	島	イ四四
沖	永	島	イ四五

沖	宮	石	西	台	新	台	台	高	花	澎	八
本	古	垣	表	北	竹	中	南	雄	連	湖	丈
島	島	島	島	州	州	州	州	州	港	島	島
イ四六	イ四七	イ四八	イ四九	イ五〇	イ五一	イ五二	イ五三	イ五四	イ五五	イ五六	イ五七

秘海軍公報 號外(郵便)

四三

1236

第四十七魚雷調整班	ウ六〇〇
第四十八魚雷調整班	ウ六〇〇
第一〇一突擊隊	ウ六〇〇
第四十七警備隊	ウ六〇〇
第四百四戰隊司令部	ウ六〇四

ヲ加フ
同 (其ノ二) 中ニ

攻撃第一〇五飛行隊	テ登四五
攻撃第二五一飛行隊	テ登四六

ヲ加フ
同 (其ノ三) 中ニ

○發送先

- 第一一六海防艦艇裝員事務所
- 第一海防隊主計長
- 臺灣航空隊司令部
- 臺灣航空隊 臺南派遣隊
- 歸仁派遣隊
- 仁德派遣隊

第四十五震洋隊	イ貳參參
第三十四突擊隊	イ貳參四
第一二〇震洋隊	イ貳參五
第一一五震洋隊	イ貳參六
第十一警備隊	イ貳參七
第一三二航空隊	イ貳參八

ヲ加フ
同 (其ノ四) 中ニ

第一支所	七登八五
第二支所	七登八六

- 東京都深川區豊洲町二丁目、石川島造船所第二工場氣付
- 第三十九海防艦艇裝員事務所
- 鹿屋市鹿屋航空基地氣付
- 「イ壹貳八」司令部
- 「イ壹貳八」經山南隊
- 歸隊
- 仁隊

第七六二航空隊
 攻撃 第一〇三飛行隊
 同 第一〇五飛行隊
 同 第二五一飛行隊
 同 第二六二飛行隊
 同 第四〇六飛行隊
 同 第五〇一飛行隊
 偵察 第一一飛行隊
 第一特攻戰隊司令部
 第三十二突擊隊
 第一〇一突擊隊
 第四十五震洋隊
 第一一五震洋隊
 第一二〇震洋隊
 第四魚雷調整班
 第四十七魚雷調整班
 第四十八魚雷調整班
 第十一警備隊
 第三百六十一設營隊
 第三百十三設營隊
 上海海軍衣糧廠青島支廠

福岡縣築上郡、築城航空基地氣付 「ウ參六貳」
 鹿兒島縣始良郡、國分航空基地氣付 「テ登參參」
 鹿兒島縣始良郡、加治木局氣付 「テ登四五」
 鹿兒島縣肝屬郡、申良航空基地氣付 「テ登四六」
 福岡縣築上郡、築城航空基地氣付 「テ登參登」
 鹿兒縣出水郡、出水航空基地氣付 「テ登參八」
 福岡縣築上郡、築城航空基地氣付 「テ登參貳」
 鹿屋市、鹿屋航空基地氣付 「イ登九四」
 横須賀局氣付 「ウ五九五」
 鹿兒島局氣付 「イ貳登七」
 横須賀局氣付 「ウ六〇貳」
 朝鮮、鎮海局氣付 「イ貳參參」
 佐世保局氣付 第一軍用郵便所經由 「イ貳參六」
 朝鮮、鎮海局氣付 「イ貳參五」
 臺灣高雄市、高雄警備府構内郵便局分室氣付 「ウ參九貳」
 大分縣宇佐郡柳ヶ浦村、宇佐航空基地氣付 「ウ六〇〇」
 石川縣江沼郡篠原村、小松航空基地氣付 「ウ六〇登」
 佐世保局氣付 「イ登五 一 貳參七」
 大村市、松原局氣付 「イ貳參貳」
 香川縣三豊郡、觀音寺局氣付 「ウ五八八」
 佐世保局氣付 第三軍用郵便所經由佐世保海軍衣糧廠青島支廠

○雜 款

○書類發送ニ關スル件

當隊審査部ハ四月八日以降三澤航空基地へ疎開セルニ付當隊宛
 一般書類及審査部關係書類ハ別ニ一通左記宛直送相成度

記

秘海軍公報 號外(郵便)

四五

青森縣上北郡三澤航空基地氣付 近藤部隊宛

(横須賀海軍航空隊)

○郵便物送付先

當廠本部ハ曩ニ海軍技術研究所構内ニ設置中ノ處來四月二十五日第一海軍技術廠支廠構内ニ移轉ノ豫定ニ付當廠及總務部、電波及通信兵器部、會計部、醫務部宛書類ハ左記ニ依リ送付相成度追テ電波、通信兵器部、會計部宛ノ書類ニシテ特ニ緊急處理ヲ要スルモノハ寫ヲ海軍技術研究所構内第二海軍技術廠東京支部ニ送付ヲ得度

記

神奈川縣横濱市釜利谷町 第二海軍技術廠

(第二海軍技術廠)

秘

海軍公報 第四九九三號

○軍令

朕海軍總隊司令部ヲ制定シ之方施行ヲ命ズ

御名御璽

昭和二十年四月二十三日

海軍大臣 米 内 光 政

軍令海第二號

海軍總隊司令部令

第一條 大東亞戰爭中海軍總隊司令部ヲ置ク

第二條 海軍總隊司令部ハ海軍部隊ノ作戰指揮ヲ掌ル所トス

第三條 海軍總隊司令部ニ海軍總司令長官ヲ置ク

總司令長官ハ親補トス

第四條 總司令長官ハ

天皇ニ直隸シ作戰ニ關シ聯合艦隊、支那方面艦隊、鎮守府、

警備府、商港警備府及海上護衛總司令部ノ司令長官ヲ指揮ス

總司令長官ハ軍政ニ關シテハ海軍大臣ノ指揮ヲ承ケ又作戰計

畫ニ關シテハ軍令部總長ノ指示ヲ承ケ

第五條 總司令長官ノ幕僚トシテ左ノ職員ヲ置ク

海軍總隊參謀長

海軍總隊參謀副長

海軍總隊參謀

海軍總隊參謀

秘海軍公報 第四九九三號

昭和二十年四月二十四日

昭和二十年四月二十四日
海軍大臣



海軍總隊副官

海軍總隊機關長

海軍總隊軍醫長

海軍總隊主計長

前項職員ノ外海軍總隊司令部附トシテ士官、特務士官、准士官、下士官及兵並ニ高等文官及判任文官ヲ置ク

第六條 海軍總隊司令部ニ必要ニ應ジ艦船部隊等ヲ附屬ス

第七條 鎮守府令第五條、第八條、第十五條、第十六條及第十八條乃至第二十一條並ニ艦隊令第二十一條及第二十二條ノ規定ハ海軍總隊司令部ニ之ヲ準用ス但シ鎮守府令第十六條ノ規定ノ準用ノ場合ニ於テハ部下將校中ニハ作戰ニ關シ總司令長官ノ指揮ヲ承クル司令長官ヲ含ムモノトス

附則

本令ハ昭和二十年四月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

○令 達

内令第三二四號

海軍特兵部令左ノ通定メラル

昭和二十年四月十五日

海軍大臣

四二九

1240

海軍特兵部令

第一條 海軍特兵部ハ海軍特種兵力（潜水艦並ニ水中及水上特攻兵力ヲ謂フ以下同ジ）關係事項ノ連絡統合ニ任ジ且左ノ事項ノ研究、調査及企畫ヲ掌リ其ノ實行促進ニ當ル所トス
一 特種兵力關係ノ軍備、制度、編制、役務及定員ニ關スル事項

二 特種兵力關係ノ進出準備、補給ニ關スル事項
三 特種兵力關係ノ造修、整備及軍需品ニ關スル事項
四 特種兵力關係ノ教育訓練ニ關スル事項

五 特種兵力關係ノ基地施設ノ整備ニ關スル事項
六 特種兵力關係ノ要員ニ關スル事項

七 特種兵力關係ノ給與、被服及糧食ニ關スル事項
八 特種兵力關係ノ衛生ニ關スル事項

九 其ノ他特種兵力關係一般ニ關スル事項

第二條 海軍特兵部ハ常ニ海軍省各局、海軍艦政本部、海軍航空本部、海軍施設本部、海軍運輸本部、軍令部其ノ他海軍部内ニ於ケル關係機關ト密接ニ連絡スベシ
第三條 海軍特兵部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長
部員

第四條 部長ハ海軍大臣ニ隸シ部務ヲ總理ス部長ハ作戰用兵ニ

關係アル事項ノ研究ニ關シテハ軍令部總長ノ指示ヲ承ク

第五條 部長缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハザルトキハ部下ノ兵科將校庶次ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス

第六條 部員及附ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第七條 部長ハ研究、調査及企畫シタル事項ニシテ實施上各局部ノ所掌ニ屬スルモノハ案ヲ具シ之ヲ當該局部ニ移スト共ニ關係事務ノ促進ヲ圖ルベシ

第八條 海軍特兵部ノ定員表ハ別表ニ依ル

附則
海軍潜水艦部令ハ之ヲ廢止ス
(別表添)
(内令提要卷一、二二頁參照)

内令第三二五號
海軍省ニ於ケル海軍特種兵力（潜水艦並ニ水中及水上特攻兵力）ニ關スル文書處理ニ關シ左ノ通定ムル
昭和二十年四月十五日

第一條 海軍省各局ノ審案文書ニシテ海軍特種兵力（潜水艦並ニ水中及水上特攻兵力）ニ關係アルモノハ主務局長ノ捺印ヲ受ケタル後海軍特兵部ニ送付シ連帶ヲ求ムルモノトス

第二條 海軍艦政本部、海軍航空本部、海軍施設本部及海軍運輸

輸本報ヨリ提案スル文書ニ付前項ノ規定ヲ準用ス
 第三條 第一條ノ規定ハ海軍省各局、海軍艦政本部、海軍航空
 本部、海軍施設本部及海軍運輸本部ニ於テ發受スル文書ニ付
 之ヲ準用ス

附則

昭和十八年内令第八四一號海軍省ニ於ケル潜水艦ニ關スル文書
 處理ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス

内令第三二六號

昭和十八年内令第一一號航空基地管理ニ關スル件中左ノ通改正
 ス

昭和二十年四月十五日

「第八〇一海軍航空隊」ヲ「第一〇一航空戰隊」ニ改ム

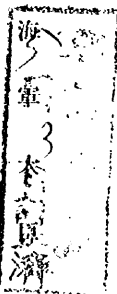
(内令提要卷一、三〇ノ四一頁參照)

内令第三二七號

昭和十八年内令第一一號航空基地管理ニ關スル件中左ノ通改正
 ス

昭和二十年四月十五日

「第二鈴鹿航空基地 第一〇一海軍航空隊」ヲ



小松航空基地	第五航空艦隊
第二鈴鹿航空基地	第一〇一航空戰隊
伊賀上野航空基地	
福知山航空基地	

ニ改ム

(内令提要卷一、三〇ノ四一頁參照)

内令第三二八號

特設海軍運輸部令中左ノ通改正セラル
 昭和二十年四月十五日

別表第一 佐世保鎮守府所管高雄警備府ノ項中

高雄海軍運輸部 高雄 基隆海軍運輸部 基隆 二改

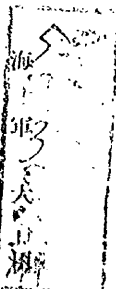
別表第三中「高雄」ヲ「基隆」ニ改ム

(内令提要卷一、三八ノ六三頁參照)

内令第三二九號

昭和十八年内令第一二五九號海軍運輸部ノ支部ヲ置ク地等ノ件
 中左ノ通改正ス

昭和二十年四月十五日



秘海軍公報 第四九九三號 昭和二十年四月二十四日

四三一

別表中	
基隆	基隆支部
馬公	高雄海軍運輸部
馬公	馬公支部
馬公	基隆海軍運輸部
馬公	馬公支部

(内令提要卷一、三八ノ七一頁参照)

内令第三三〇號

昭和十六年内令第六五〇號中左ノ通改正本

昭和二十年四月十五日

海軍省 大臣 日訂正済

「海軍航空技術廠」ヲ「海軍技術廠」ニ、「海軍航空技術廠支廠」ヲ「海軍技術廠支廠」ニ改ム

第二號(イ)中「潜水艦部」ノ下ニ「砲煩實驗部」ヲ加フ

同號(ロ)中「發著機部」ノ下ニ「基礎研究部、電波兵器部、通信兵器部、音響兵器部、磁氣兵器部、光熱兵器部、電氣兵器部」ヲ加フ

第三號(ロ)中「航空醫學部」ノ下ニ「基礎研究部、電波兵器部、通信兵器部、音響兵器部、磁氣兵器部、光熱兵器部、電氣兵器部」ヲ加フ

同號(シ)中「電氣研究部、電波研究部」及「音響研究部」ヲ削ル

附則

本令ハ昭和二十年二月十五日ヨリ之ヲ適用ス

(参照) 昭和十六年内令第六五〇號ハ海軍工務規則第三條ノ部ノ件ナリ(内令提要卷一、三〇ノ三三頁)

官房軍機密第一三一號

海軍特攻部規程ハ昭和二十年四月十四日限り之ヲ廢止ス

昭和二十年四月十五日

海軍省 大臣 日訂正済

(内令提要卷一、二三ノ五頁参照)

○ 通 牒

海人四機密第一五一號

昭和二十年四月二十四日

海軍省 人事局長

關係各廳長殿

戰時召集延期者削除ニ關スル件通知

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通陸軍省ヨリ通牒有之候條可然取計相成度 (別紙)

陸密第一五九八號

戰時召集延期者削除ニ關スル件通牒

昭和二十年四月十二日

陸軍省 副官

情勢ノ進展ニ伴ヒ自今戰時召集延期乙種(甲、乙區分ナキモノ
ニ在リテハ乙種ト見做ス)該當者ハ逐次其ノ適用ヲ削除セラ
ルニ付承知セラレ度依命通牒ス

追而甲、乙種區分ノ變更等ニ關シテハ別紙ニ據ラレ度申添フ

(別紙)

一 現ニ戰時召集延期乙種(甲、乙區分ナキモノニ在リテハ乙種ト見做ス)ト爲シアル者ニシテ爾後ノ檢討又ハ狀況ノ變化等ニヨリ甲種ニ變更ヲ要スルモノハ甲種配當數内ニ於テ甲種ニ變更スルコトヲ得

此ノ場合ニ在リテハ役種別、歸還者及其ノ他別區分等ハ考慮ノ要ナキモノトス

二 年齢十七年未滿ニシテ志願ニ依リ第二國民兵役ニ編入セラレタル者及徵兵終決處分ヲ經サル第二國民兵中特ニ重要ナル者ハ配當數内ニ於テ要度種別區分ニ應シ戰時召集延期候補者ヲラシムルコトヲ得

三 前各號ニ依ル變更ノ實施ハ關係官衙、學校、會社、工場、事業場等ノ長ヨリ直接關係師管區司令官宛變更名簿(別紙様式)ヲ提出スルモノトス

註 召集セラレタル者ノ召集解除ニ關シ直接聯隊區又ハ部隊等ニ願出ツルモノ尠カラサル實情ナルモ嚴ニ之ハ戒メラレ度又陸軍大臣ニ於テ行フ召集解除ハ眞ニ止ムヲ得サル場合ノ外一切之ヲ認メサルニ付承知セラレ度

(別紙添)

艦本機密兵無線第三〇五號

昭和二十年四月二十日

海軍艦政本部長
海軍省軍需局長

各海軍軍需部長
各廳(長)殿

各種「ラヂオ」受信機同用消耗品保管轉換ノ件通牒(通信長主管)

左記ニ依リ「ラヂオ」受信機ヲ情報受信用トシテ保管轉換スベシ

記

- 一 在庫ノ「ラヂオ」受信機ヲ艦營需品ヨリ兵器ニ移管ス
 - 二 艦船部隊學校等ニ供給貸與中ノモノハ第一號ニ基キ移管ノコトトシ其ノ整理ハ帳簿ノ轉記ニ依ル
 - 三 舊兵備品會計官吏ハ品名、數量及供給貸與先ヲ速ニ新兵備品會計官吏竝ニ海軍艦政本部ニ通報スルモノトス
 - 四 艦船部隊學校以外及軍需部貸與中ノモノハ通常物品トス
- 移管後ノ品名ヲ「情報受信機」ト改稱シ全波受信機ヲ「一型」、中波受信機ヲ「二型」ト呼稱ス

○ 雜 款

○司令海防艦變更

第二十一海防隊司令ハ四月七日司令海防艦ヲ千珠ニ變更セリ

秘海軍公報 第四九九三號 昭和二十年四月二十四日

四三三

○開隊 開隊		官衙、部隊名	所在地	開隊、開	記	事
第五十七特備隊		千島諸島松輪島	二月二〇日	三月二〇日附テ以テ第五十七特備隊松輪派遣隊ハ解隊セリ		
海軍特兵部		東京都麹町區役所 東關二ノ一海軍省	四月二五日	一 郵便物發送先 二 東京都麹町區役所 三 海軍省內海軍特兵部 四 從來海軍潜水艦部及海軍特政支部宛ノ書類ハ自今海軍特兵部宛ニ送付ノコト		
○廳舎移轉						
官衙名	移轉先	移轉月日	記			
英城縣稻敷郡朝日村大字荒川沖	英城縣稻敷郡朝日村大字荒川沖	四月一日	順路 當繁線荒川沖下車徒歩約十分 電話 海軍電話 一 空廢交換 三八〇番			
横須賀海軍運輸部 部員ケ浦出張所	横須賀市港北區日吉町海軍省第七分室	四月二〇日				
○事務開始						
事務所名	設置場所	事務開始日	電話	記事		
特設運送船池東丸 殘務整理班	吳海軍經理部內吳鎮守府整班內	三月八日				
第三號海防艦殘務整理班	同	三月二〇日				
第三百十三號營隊強部隊殘務整理班	同	四月二日				

第二次進出機帆船 同 四月五日

○轉勤者旅行ノ件
當隊ヘノ轉勤者旅行方法ニ關シ山形縣北村山郡神町(神町海軍航空隊)又ハ茨縣鹿島郡高松村(神ノ池航空基地)ト指定セラルル向相當多ク誤入隊ノ爲轉入期日ノ遅延事務輻輳等ノ支障不尠ニ付直接茨縣筑波郡谷田部町ニ向ケ旅行セシメラレ度
追テ當隊ハ客年十二月五日附神ノ池海軍航空隊解隊ニ伴ヒ谷田部海軍航空隊ト改稱同日舊谷田部海軍航空隊ハ神町海軍航空隊ト改稱セラレ候ニ付郵便物送達方ニ關シテモ可然處理相成度
(谷田部海軍航空隊)

○本日軍極秘海軍公報第一一八號(乙配付)發行セリ
配付先
各司令部、各海軍軍需部、各海軍經理部、各海軍衣糧廠、海軍經理學校、海軍潜水學校

(内令第三二四號別表)

海軍特兵部定員表

(昭和二十年四月二十四日祕海軍公報)

考 備	計	部 長	部 員	部 員
	士	中 將	大 中 佐	中 大 佐
一 部員中大中佐一人ハ海軍省教育局局員、中少佐四人ハ海軍省軍務局、人事局及教育局ノ局員、三人ハ海軍艦政本部部員、二人ハ軍令部部員ヲ以テ兼補ス	官	兼務一	兼務一	主計少佐、主計大尉
				兼務三
二 部員中軍醫中少佐ハ海軍省醫務局局員、技術中少佐、技術大尉ハ海軍施設本部部員ヲ以テ兼補ス	判 任 文 官	書 記	兼務一	技術中少尉
三 海軍大臣ハ必要ニ應ジ本表ノ定員ヲ臨時増減スルコトヲ得				兼務三
	内兼務十四人			四
	二十三人			
	四人			

秘

海軍公報

第四九九四號

昭和二十年四月二十五日

海軍大臣

海軍大臣

接	衆
房	2
舞	鎮

司令 達

内令第二六四號之二

第七十三號哨戒特務艇

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定ム

昭和二十年三月二十六日

海軍大臣

參謀長

内令第二六四號之三

特設監視艇隊編制申左ノ通告定セラル

昭和二十年三月二十六日

海軍大臣

參謀副長

第一監視艇隊ノ項中「第一號哨戒特務艇、」ノ下ニ「第七十三號哨戒特務艇、」ヲ加フ

(内令提要卷一、一五一頁参照)

官房機密第二五〇號

黄分ノ間分離行動等ノ事由ニ依リ所屬隊ノ兵備品取扱主任ヨリ
船會社ノ供給ヲ受クルコト困難ナル監視艇又ハ特設監視艇ニ對
シテハ昭和十七年官房機密第五七三二號ヲ準用スルコトヲ得

昭和二十年四月二十三日

秘海軍公報 第四九九四號 昭和二十年四月二十五日

(参照) 海軍機密會計法規類集三〇二頁

官房第四二二號

雜役船ノ所屬ヲ左ノ通變更ス

昭和二十年四月二十四日

海軍大臣

公稱番號	船名	船種	舊所屬	新所屬	別定數	記事
第四三〇號	曳船兼交通船	(十五艘)				
第四九八號	同	(二十二艘)				
第四四號	曳船	(二百五十艘)				
第六〇〇號	同	(百三十五艘)				
第六二號	同	(九十五艘)				
第五八號	交通船	(二十九艘)				
第六三號	內火艇	(七・五米)	海軍技術研究			
第七三號	傳馬	(十・五米)		第二海軍技術		
第七四號	同	(四・六米)				
第七三號	同	(六・五米)				

四三五

第七八六號	傳馬(六隻)			
第七八七號	運(貨)型船			
第七八八號	潜水作業艇			
第七八九號	内(十二米)	海軍航空技術廠		
第八〇〇號	交通船兼曳船(二十噸)	舞鶴防備隊	平海兵團	定數
第八〇一號	交通船(六百二十五噸)	水路部	横濱港灣警備隊	臨時附屬
第八〇二號	カツタ	上海海軍特別陸戰隊	佐世保海兵團	定數
第八〇三號	同	三重海軍航空隊 奈良分遣隊	第二河和海軍航空隊	同

○通牒

官房機密第一三四號ノ二八

昭和二十年四月十五日

海軍省 副官

關係各廳長 殿

暗號圖書配給及處分ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シテハ別ニ特令セラルルモノヲ除キ別冊暗號圖書現狀表第五〇號ニ依リ處理相成度

(別冊ハ所要ノ向ニノミ之ヲ配付ス)

○雜 款

○將旗揚揚

本職四月十日將旗ヲ門司第一護衛艦隊司令部ニ揚揚セリ
(第七艦隊司令長官)

○本日軍機秘海軍公報第一一九號(甲配付)發行セリ

○本日海軍公報發行セズ

秘

海軍公報

第四九九五號

昭和二十年四月二十六日(木)
海軍大臣官房

○令 達

達第七九號

海軍機關教範中左ノ通改正ス

昭和二十年四月二十四日

海軍大臣

第八十八條第十號ヲ左ノ如ク改ム

十 充電中ハ二器電壓大凡二・四五「ボルト」以上ニ達スレバ水素「ガス」ノ發生量激増シ空氣中ノ水素「ガス」含有量容積ニテ百分ノ七・八以上ニ至ラバ火花又ハ火氣ニ依リ容易ニ引火爆發スルヲ以テ電池船體間ノ絕縁、金屬ノ衝撃其ノ他火花發生ノ防止ニ對シ嚴密ナル注意ヲ拂ヒ且電池及瓦斯排出口附近ニ火氣ヲ接近セシメザルヲ要ス

第八十八條ノ二ニ左ノ一號ヲ加フ

五 排氣管ノ裝備ナキ蓄電池ニ對シ「カドミウム」補助極ヲ使用シ電壓測定ノ際「カドミウム」補助極ヲ電解液ヨリ引揚グル場合ニハ必ず電壓計ノ端子棒ヲ蓄電池ノ陽極又ハ陰極ヨリ離脱セル後ニ之ヲ行フベシ

第八十九條第一號中「如何ナル場合ト雖モ水素「ガス」含有量ヲ容積ニテ百分ノ三以上ニ達セシムベカラズ」ヲ「水素「ガス」含有量ヲ容積ニテ充電中ニ在リテハ百分ノ三以上ニ其ノ他ノ場

合ニ在リテハ百分ノ六以上ニ達セシムベカラズ」ニ改ム
第八十九條中第二號ヲ第三號トシ以下順次繰下テ第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

二 排氣管ヲ装着セザル蓄電池ニ在リテハ電池室内ハ常ニ水素「ガス」含有量ヲ容積ニテ百分ノ六以上ニ達セシムベカラズ特ニ充電終期及終了後ノ相當期間ハ電池内水素「ガス」含有量ハ容積ニテ百分ノ六ヲ超過スルヲ例トスルヲ以テ電池排氣口附近ニ絕對ニ火氣ヲ發生セシメザルヲ要ス

官房經第三二一號

昭和十九年官房經第五三四號外一併中左ノ通改正ス

昭和二十年四月二十四日

海軍大臣官房
昭和二十年四月二十四日

一 昭和十九年官房經第五三四號中左ノ通改正ス

「國民勤勞報國協力令」ヲ「國民勤勞動員令」ニ改ム
別表學生ノ項中「專門學校以上」ヲ「專門學校（中等學校ノ附設課程ニ在ル者ヲ含ム）以上」ニ改ム

二 昭和十九年官房經第五三五號中左ノ通改正ス
別表中男子ノ欄「專門學校」ノ下ニ「（中等學校ノ附設課程ニ在ル者ヲ含ム以下之ニ同ジ）」ヲ加フ

附則

秘海軍公報 第四九九五號 昭和二十年四月二十六日

四三七

1250

本令ハ昭和二十年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

昭和十九年官房經第五三四號

(參照)

同 官房經第五三五號

二〇八ノ三ノ二頁

官房經機密第二五一號

戰時軍人軍屬旅費特例中左ノ通改正ス
昭和二十年四月二十四日



第九條中「戰地」ヲ「戰地又ハ準戰地(伊豆諸島、薩南諸島、琉球諸島及臺灣ヲ謂フ以下之ニ同ジ)」ニ改ム

第十一條ノ五中「戰地ニ在ル」ヲ「戰地又ハ準戰地ニ在ル」ニ、「戰地外」ヲ「戰地外又ハ準戰地外」ニ改メ同條ノ第十一條ノ六トシ以下第十一條ノ八迄順次繰下グ

第十一條ノ四ヲ第十一條ノ五トス

第十一條ノ四 鐵道賃計算上本邦ニ在ル鐵道ハ二、三等ノ設備アル區間トシテ取扱フコトヲ得

第十五條中「戰地」ノ下ニ「準戰地」ヲ加フ

第十五條ノ二ヲ第十五條ノ三トシ第十五條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十五條ノ二 戰地若ハ準戰地ニ在ル艦船部隊其ノ他各部ニ勤務スル者又ハ第十二條乃至第十四條ノ規定ニ該當スル者ノ家族移轉完了届ハ海軍内國旅費規則其ノ他ノ規定ニ拘ラズ之ヲ

省略スルコトヲ得

第十八條ノ三 勤務廳所在市町村内ニ於テ轉勤スル者ニシテ官舎居住又ハ官舎明渡ノ爲住所ヲ移轉シタルモノニハ海軍内國旅費規則第四十七條ノ規定ニ拘ラズ所轄長必要ト認ムル場合ニ限り百糎未満ノ移轉料ノ定額ノ三分ノ二以内ノ額ノミシ支給スルコトヲ得

前項ノ規定ニ該當スル場合ノ外官舎居住又ハ官舎明渡ノ爲住居ヲ移轉シタルトキハ所屬長官ノ認許ヲ得テ前項ノ規定ニ準ジ移轉料ヲ支給スルコトヲ得

第十九條第一項ヲ左ノ如ク改ム

内地ハ戰地又ハ準戰地タル地域ヲ除ク以下之ニ同ジ、關東州若ハ滿洲ト外地、戰地若ハ準戰地トノ間、關東州若ハ滿洲トノ間、外地ト戰地若ハ準戰地トノ間、戰地ト準戰地トノ間又ハ外地、戰地若ハ準戰地各相互間ヲ赴任又ハ轉勤スル者ニ支給スル旅費ハ到着地ニ於テ之ヲ精算ヲ爲スコトヲ得

第二十條ノ五 海軍兵歸省及家族出頭旅費規則ニ依ル鐵道賃、船賃ノ支給及一日ノ旅行行程ニ關シテハ同則第九條、第十條及第十三條ノ規定ニ拘ラズ海軍内國旅費規則第五條、第十八條、第十九條及第二十條ノ規定ヲ適用ス

附則

本令ハ昭和二十年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十八年官房經機密第三八一號、同官房經機密第六四四號及同官房經第一一七三號ハ昭和二十年四月三十日限り之ヲ廢止ス

昭和十四年官房第四三七八號中「海軍機關學校生徒」ヲ削ル
 昭和十八年官房第一二二一號中「下士官兵」ヲ「生徒、下士官兵、豫備員候補者」ニ改ム

戰時軍人軍旅費特例（海軍機密會計法規集三二九頁）
 昭和十八年官房機密第三八一號ハ基礎教育中ノ二等兵タル補充兵及國民兵ノ給與ニ關スル件ナリ

昭和十八年官房機密第六四四號ハ見習尉官、豫備學生及豫備生徒ノ給與ニ關スル件ナリ

（參照）

昭和十八年官房第一一七三號ハ下士官兵練習生ヲ命免セラレ轉勤ノ爲旅行スル場合ノ旅費ニ關スル件ナリ
 （海軍會計法規集二卷六五四頁）
 昭和十四年官房第四三七八號ハ海軍各學校ノ生徒採用ノ爲召喚セラレタル者ニ對スル滞在旅費ニ關スル件ナリ

昭和十八年官房第一二二一號ハ海軍病院入院中歸郷療養ヲ命セラレタル者ノ旅費ニ關スル件ナリ
 （同） 六五五頁）

官房機密第五號ノ四八

昭和二十年四月二十四日

海軍大臣

各鎮守府司令長官殿
 大湊、鎮海、大阪、高尾、備前府

兵器簿ノ件通達

海軍航空隊（航空基地ヲ含ム）兵器簿内務長主管ノ部中左記ノ

祕海軍公報 第四九九五號 昭和二十年四月二十六日

通改正ス
 尙本兵器ハ道テ航空兵器定數簿通信長主管（航空）ニ追加スルモノトス

記

指定	類別	品名	當備數	記事
削除	電氣通信器之部	高聲令達機及同關聯裝置	全部	

官房機密第一三七號

昭和十七年官房機密第一四二八號中左ノ通改正ス

昭和二十年四月二十五日

別表陸戰隊被服ノ部(イ)及(ロ)左ノ如ク改ム

品名	毎一人貸與數	貸與區分	製式	貸與範圍
准士官以上劔帶	一個		褐色革又ハ褐色布製	戰地ニ在リテ勤務スル者又ハ艦隊若ハ海上護衛總司令部ニ屬スル艦隊ニ於テ
略帽	一個		第三種軍服用モノニ同シ	
准士官以上略衣	二個		服制ニ定ムルモノニ同シ	
准士官以上略袴	二個	准士官以上	同	艦隊ニ於テ陸戰隊ノ配置ニ在リ任務上特ニ必要ナル者
准士官以上襟章	二組		軍衣襟章ニ同シ	
准士官以上褐色シヤツ	三個		褐色布製、折襟	
ネクタイ	一個		第三種軍服用モノニ同シ	

四三九

<p>一 昭和二十年三月三十一日迄ニ企業整備本部(工場轉用申請書ニ在リテハ主務官廳以下同シ)ニ於テ受理シタル申請書ニシテ四月三十日迄ニ轉用通知書又ハ轉用證明書ヲ發行シタルモノハ之ヲ昭和十九年度分トシテ處理シ其ノ他ハ之ヲ昭和二十年分トシテ處理スルモノトス但シ三月三十一日迄ニ工場等轉用協議會ニ於テ爲シタル決定ニ基ク申請書ニシテ四月十五日迄ニ企業整備本部ニ於テ受理シタルモノハ昭和十九年度分トシテ處理スルモノトス</p> <p>二 昭和二十年分ト昭和十九年度分トヲ區別スル爲昭和二十年分トシテ處理スベキ轉用證明書ニハ其ノ欄外ニ(20)ノ表示ヲ爲スモノトス</p> <p>三 其ノ他ノ事項ニ付テハ「工場等轉用ニ關スル實施要綱」及「昭和十九年度工場及設備轉用ニ關スル實施要領」ニ基キ處理スルモノトス但シ物資動員計畫ニ關聯スルモノニ付テハ右計畫設定後決定スルモノトス</p>	<p>海人三機密第一號ノ一〇四 昭和二十年四月二十三日</p> <p>海軍省人事局長 各領守府參謀長殿 築城施設關係ノ工作兵ヲ技術兵ニ轉科ノ件申 改正ノ件申進</p>	
<p>本年海人三機密第一號ノ六六申進首題ノ件中第一號(イ)中「施設機械」ヲ「築城施設關係工業」ニ改メラレ候 (昭和二十年三月二十四日本欄参照)</p> <p>經三給機密第八一號 昭和二十年四月十日 海軍省經理局長</p>	<p>關係各所轄長殿 臺灣、沖繩諸島ヲ受領地トスル家族渡ニ關スル件通知</p> <p>首題ノ件ニ關シテハ從來兎角送金ニ支障アリシ爲當分ノ間臺灣ヲ受領地トスル者ニ對シテハ高雄海軍經理部ヨリ沖繩諸島ヲ受領地トスル者ニ對シテハ沖繩特別根據地隊ヨリ夫々家族渡ノコトニ取計置候條此ノ旨關係ノ向ニ周知方取計相成度 追テ當該家族ニ對シテハ當局ヨリ其ノ旨通知濟ニ有之候</p>	<p>○餘銜試驗問題發送</p> <p>昭和二十年分前期 高等科氣象術 特技章付與銜試驗問題 普通科氣象術 (試驗期日昭和二十年六月一日)</p> <p>右三月三十一日左記ノ通發送濟ニ付未着又ハ別ニ必要ノ向ハ最寄海軍人事部署ハ海軍氣象學校ニ請求相成度 記</p>

秘海軍公報 第四九九五號 昭和二十年四月二十六日

四四一

- 一 單獨試驗實施豫想ノ向ニハ直送
- 二 聯合試驗用ハ各海軍人事部長ニ
- 三 行動豫定變更其ノ他ノ理由ニ依リ單獨實施用トシテ若干各海軍人事部ニ送付シアリ

(海軍氣象學校)

第二回高等科 (掌信號兵(見張)兵) 特技章付與銜試驗問題

第五回普通科 (掌信號兵(見張)兵) 特技章付與銜試驗問題

右四月十七日左記ノ通發送濟ニ付未着又ハ別ニ必要ノ向ハ最寄海軍人事部、警備府又ハ海軍航海學校ニ至急通知相成度

記

- 一 單獨試驗施行豫定ノ各部ニハ直送
- 二 聯合試驗用ハ各海軍人事部宛送付
- 三 聯合試驗參加豫定ノ艦船ニシテ行動豫定變更ノ爲聯合試驗參加不能ノ向ニ對スル分トシテ單獨試驗用若干部各海軍人事部宛送付シアリ

(海軍航海學校)

○履歴記事項ニ關スル件

當隊第一郡山海軍航空隊ト改稱セラレ候ニ就テハ本年二月十一日以後本隊定員、練習生、講習員及新兵タリシモノニシテ現ニ所轄勤務員タル者ノ調査ノ上左記ノ通記註相成度

記

- (イ) 三、三二 内令第一二六號ニ依リ第一郡山海軍航空隊ト改稱
- 三、三二 第一郡山海軍航空隊附ヲ命ズ(官房人) 第一郡山空
- (ロ) 但シロ項ニ對シテハ二月十一日本隊定員タリシ者ノミトス (第一郡山海軍航空隊司令)

○本日軍機秘海軍公報第一二〇號(乙配付)發行セリ

關係各司令部、橫須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍人事部、吳海軍工廠、關係各學校

○本日海軍公報發行セズ

秘

海軍公報 第四九九六號

〇令 達

内令第三三一號
潜水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年四月十五日



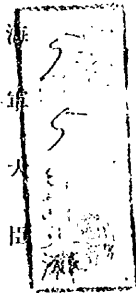
第十六潜水隊ノ項中「波號第二百二」ノ下ニ「波號第三百三」ヲ加フ

第三十三潜水隊ノ項中「伊號第二百一」ヲ削ル

(内令提要卷一、七〇頁参照)

内令第三三二號
海防隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年四月十五日



第二十一海防隊ノ項中「新南」ノ下ニ「第二十七號」ヲ加フ

(内令提要卷一、七四頁参照)

内令第三三三號

横須賀鎮守府所管
特設驅潛艇 第二萬代丸

昭和二十年四月二十七日

海軍大臣

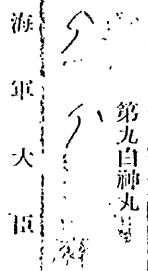


吳鎮守府所管

- 同 第六惠山丸
- 同 第七惠山丸
- 同 第八惠山丸
- 同 第一大平丸
- 同 第九神威丸
- 同 第九白神丸

右佐世保鎮守府所管ト改ム

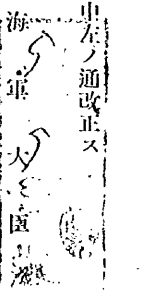
昭和二十年四月十五日



内令第三三四號

昭和十八年内令第二五六號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年四月十五日



佐世保防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「第四十三日ノ丸(佐)」ノ次ニ「第二萬代丸(佐)、第六惠山丸(佐)、第七惠山丸(佐)、第八惠山丸(佐)、第一大平丸(佐)、第九神威丸(佐)、第九白神丸(佐)」ヲ加フ

高雄海軍警備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「第九神威丸(吳)、第九白神丸(吳)」ヲ削ル

秘海軍公報 第四九九六號 昭和二十年四月二十七日

四四三

1256

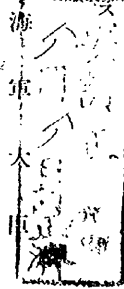
第三海上護衛隊ノ項ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

内令第三三五號

特務艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和二十年四月二十日



特務艇、魚雷艇第四百十一號型ノ項中「第四百七十三號」ノ下ニ「、第千二百二十四號、第千二百二十五號、第千二百二十六號、第千二百二十七號、第千二百二十八號、第千二百二十九號、第千二百三十號、第千二百三十一號」ヲ、同第四百六十九號型ノ項中「、第八百三十七號」ノ下ニ「、第千二百二十號、第千二百二十一號、第千二百二十二號、第千二百二十三號」ヲ、同第五百三十八號型ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第千二百九號型	第千二百九號、第千二百十號、第千二百十一號
第千二百十二號型	第千二百十二號、第千二百十三號、第千二百十四號、第千二百十五號、第千二百十六號、第千二百十七號、第千二百十八號、第千二百十九號

同十號集艇ノ項中「第七十三號」ノ下ニ「第百二十三號、第百二十四號」ヲ加フ

(内令提要卷三、四三頁参照)

内令第三三六號

驅逐隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

第十七驅逐隊ノ項中「雪風」ノ下ニ「、初霜」ヲ加フ
第二十一驅逐隊ノ項中「初霜」ヲ削ル

(内令提要卷一、六八頁参照)

内令第三三七號

潛水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年四月二十日

海軍大臣



第十九潛水隊ノ項ヲ削ル
第三十三潛水隊ノ項中「昌號第六十二」ノ上ニ「伊號第百二十一、伊號第百二十二、伊號第百五十五」ヲ加フ
第三十四潛水隊ノ項中「伊號第百五十六、」ノ下ニ「伊號第百五十七、伊號第百五十八、伊號第百五十九、」ヲ加フ

(内令提要卷一、七〇頁参照)

内令第三三八號

横須賀鎮守府警備艦

軍艦長門

秘海軍公報 第四九九六號 昭和二十年四月二十七日

<p>右世保鎮守府警備艦</p> <p>軍艦 榛名</p>	<p>吳鎮守府豫備海防艦</p> <p>第十二號海防艦</p> <p>第四十號海防艦</p> <p>第一百十二號海防艦</p> <p>第一百五十號海防艦</p>	<p>右警備海防艦ト定メラル</p> <p>横須賀鎮守府豫備艦</p> <p>軍艦 長門</p> <p>軍艦 天城</p>	<p>吳鎮守府第一豫備艦</p> <p>軍艦 伊勢</p> <p>軍艦 日向</p> <p>軍艦 青葉</p>	<p>吳鎮守府豫備艦</p> <p>軍艦 鳳翔</p> <p>軍艦 隼</p>	<p>佐世保鎮守府豫備艦</p> <p>軍艦 榛名</p> <p>舞鶴鎮守府豫備艦</p> <p>軍艦 龍鳳</p>
<p>右第四豫備艦ト定ム</p> <p>昭和二十年四月二十日</p> <p>海軍大臣</p>	<p>内令第三三九號</p> <p>自 第一千百九號魚雷艇</p> <p>至 第一千三十一號魚雷艇</p> <p>魚雷艇 第八百二十三號軍艇</p> <p>同 第八百二十四號軍艇</p>	<p>右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定ム</p> <p>昭和二十年四月二十日</p> <p>海軍大臣</p>	<p>内令第三四〇號</p> <p>吳鎮守府在籍</p> <p>魚雷艇 第三百十八號軍艇</p> <p>同 第三百十九號軍艇</p> <p>自同 第三百二十六號軍艇</p> <p>至同 第三百四十五號軍艇</p>	<p>佐世保鎮守府在籍</p> <p>自 第八百五十四號魚雷艇</p> <p>至 第八百五十九號魚雷艇</p> <p>自 第八百七十九號魚雷艇</p> <p>至 第八百八十三號魚雷艇</p>	

<p>右本籍ヲ横須賀鎮守府ニ改ム 佐世保鎮守府在籍</p> <p>自 第八百八十四號魚雷艇 至 第八百八十六號魚雷艇</p> <p>舞鶴鎮守府在籍</p> <p>自 第五百三十五號魚雷艇 至 第五百三十七號魚雷艇</p> <p>第五百四十一號魚雷艇 第五百四十二號魚雷艇 第五百四十四號魚雷艇 第五百四十七號魚雷艇 第五百四十八號魚雷艇</p>	<p>右本籍ヲ吳鎮守府ニ改ム 舞鶴鎮守府在籍</p> <p>第五百四十三號魚雷艇 第五百四十五號魚雷艇 第五百四十六號魚雷艇 第五百四十九號魚雷艇 第五百五十五號魚雷艇</p>	<p>官房軍第二〇二號 當分ノ開館山海軍砲術學校ノ施設ハ横須賀海軍砲術學校ノ施設ニ準ジ之ヲ使用スルヲ得 昭和二十年四月二十五日</p> <p>海軍大臣</p>	<p>官房軍第二〇三號 大東亞戰爭中各術科學生、練習生、講習員等ノ教育ヲ實施スル海軍部隊ハ關係各學校ト緊密ナル聯繫ヲ保持スベシ 昭和二十年四月二十五日</p> <p>海軍大臣</p>	<p>官房人機密第二六九號 特技兵臨時講習及人事取扱規則並ニ大東亞戰爭中特務隊養成ニ關スル特例中「看護術」ヲ「衛生術」ニ改ム 昭和二十年四月二十六日</p> <p>海軍大臣</p> <p>(内令提要卷三、一七頁及二七頁參照)</p> <p>官房經第二二五號 昭和十七年官房第一七一六號中左ノ通改正ス 昭和二十年四月二十六日</p> <p>海軍大臣</p> <p>第二號(中)「各二十一目附」ヲ「各十六目附」ニ改ム</p>
--	--	---	---	--

○通牒

官房軍機密第四二六號

昭和二十年四月二十六日

海軍省 副官

關係各廳長 殿

海軍化裝戰部ノ呼稱ニ關スル件通牒

當分ノ間機密保持上海軍化兵戰部ヲ置カレタル廳舎ヲ第一〇一事務所ト呼稱スルコトニ定メラレ候

○雜款

○旗艦指定

第百四戰隊司令官ハ四月十日旗艦ヲ海防艦福江ニ指定セリ

○開廳 開隊

官衙、部隊名	所在地	開廳、開隊月日	事
教習在勤軍海武官府	福井縣敦賀市天満町	四月九日	
第百四戰隊司令官	海防艦福江(本府橋内)	四月一〇日	
第十一海軍航空廣自動車部	吳市海岸通八丁日第十一海軍航空廠兵器部内	四月一日	

○事務開始

秘海軍公報 第四九九六號 昭和二十年四月二十七日

事務所名	設置場所	事務開始月日	電話	記事
第百五號海防艦機務員事務所	横濱市鶴見區羽田町一七日本钢管株式會社鶴見造船所内	四月一日		一時中止 中ラリシ 處再開
第百七十四號輸送艦機務員事務所	佐賀縣西松浦郡山代町	四月三日		
大分分遣隊機務員事務所	大分縣大分市大字牧佐土原部隊氣付	四月五日		
海防艦天津艦機務員事務所	大阪市此花區櫻島南之町一七日立造船株式會社櫻島造船所内	四月七日		

○轉勤者赴任先

自今當隊及附屬特設飛行隊ヘノ轉勤者ハ左ニ依ラレ度

第八〇一海軍航空隊 鹿兒島縣鹿屋市名貫谷 (古江線鹿屋驛下車徒歩約五十分)

偵察第一二飛行隊 同 右

偵察第七〇三飛行隊 同 右

偵察第七〇七飛行隊 鳥取縣西伯郡大篠津村美保航空基地 (境線大篠津驛下車徒歩約二十分)

偵察第三〇二飛行隊 鹿兒島縣指宿郡指宿町指宿航空基地 (指宿線指宿驛下車徒歩約四十分)

追テ當隊派遣隊ハ左ノ通

詔問派遣隊 香川縣三豐郡詫間町詫間航空基地 (豫線詫間驛下車バス十五分徒歩十五分)

横濱派遣隊 横濱市磯子區富岡町横濱航空基地 (横濱線磯子驛下車市電十五分湘南富岡驛杉田驛徒歩十五分)

(第八〇一海軍航空隊)

合同海軍葬儀執行

期日及時刻	大東亞戰爭戰歿者	喪葬管理者	場所	記事
五月二日 一〇〇〇	故海軍中佐植山利正外諸勇士	横須賀海軍人事部長	横須賀市海軍靈安所	佛式
五月十日 一三〇〇	故海軍主計少佐依田賀外諸勇士	長野地方海軍人事部長	長野市藏春閣	同
五月十一日 一一〇〇	故海軍少佐田邊 正外諸勇士	宇都宮地方海軍人事部長	宇都宮市縣教育會館	同
五月十六日 一〇三〇	故海軍少尉三浦清三九外諸勇士	仙臺地方海軍人事部長	仙臺市東本願寺	同
五月十六日 〇九三〇	故海軍大尉高野末五郎外諸勇士	秋田地方海軍人事部長	秋田市縣記念會館	同
五月十七日 一〇三〇	故海軍少佐伊藤敬四郎外諸勇士	盛岡地方海軍人事部長	盛岡市縣公會堂	同
五月十八日 一〇一五	故海軍中佐梁堀直治外諸勇士	靜岡地方海軍人事部長	靜岡市市公會堂	同
五月二十三日 一〇三〇	故海軍大尉岩崎義男外諸勇士	福島地方海軍人事部長	福島市市公會堂	同
五月二十四日 一〇三〇	故海軍中佐大河原茂重外諸勇士	前橋地方海軍人事部長	前橋市群馬會館	同

○本日軍報秘海軍公報第一二二號(甲配付)發行セリ

佐世保鎮守府ノ部中 第四海上護衛隊 ヲ削リ

南東方面艦隊 ノ次ニ 第七艦隊 ヲ加フ

(参照) 前記内令ハ戰時編制實施中艦隊等ノ司令部附特務士官以下ノ補充鎮守府ヲ定ムル件ナリ(内令提要卷二、一一頁)

内令第三四六號(軍機秘海軍公報第一二二號(甲配付)ニ掲載)

内令第三四七號

昭和十八年内令第一二號航空基地管理ニ關スル件中左ノ通改正ス

昭和二十年四月二十日

香取航空基地

筑波航空基地

ニ改ム

(内令提要卷一、三〇ノ四一頁参照)

官房入機密第二七三號

本年四月十五日現在高尾海軍運輸部職員タル者ハ特ニ發令セラ
ルルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ基隆海軍運輸部ノ相當職員
ニ補命セラレタル義ト心得ベシ

昭和二十年四月十五日

海軍大臣

官房需機密第一三八號

海軍軍需部ヨリ遠隔ノ地ニ在ル陸上部隊ニ於テ要スル半成コ
クス、カーバイト、木炭及木炭ノ製造原料タル薪ハ之ヲ現地ニ
於テ直買スルコトヲ得之方處理ニ關シテハ昭和十九年軍需第二
一五號ニ準ズルモノトス

昭和二十年四月二十五日

海軍大臣

○ 遺 牒

軍務一機密第二五〇號

昭和二十年四月二十四日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

蓄電池取扱ニ關スル件申進

今般達第七九號ヲ以テ海軍機關教範中蓄電池取扱法一部改正相
成候處之方取扱上水素「ガス」含有量限度ヲ容積ニテ充電中百
分ノ三共ノ他ノ場合百分ノ六トセラレタルハ潜水艦ノ熱地海面
作戦行動中長時間無音潜航ヲ餘儀ナクセララルル場合等ニ於ケル
發生「ガス」鬱積ノ實情ニ即シ規定セラレタルモノニ有之蓄電
池遺修ニ關シ共ノ規格ヲ下ゲ或ハ不備ノ蓄電池ヲ以テ忍ブ等ノ
趣旨ニ非ザルニ付關係各部ハ事故防止、裝備蓄電池性能底下防
止等ニ關シ遺憾ヲキ様取計相成度

航本機密第三二七七號

昭和二十年四月二十六日

海軍航空本部總務部長

關係各廳長殿

兵器製造並ニ購買通牒件名番號ノ件通知

首題ノ件昭和二十年四月一日以降左記ノ通實施セラルルニ付了知相成度

記

件名番號	事項	記	事
兵註空二第一ノ何號	機體並ニ其ノ關聯兵器	第二部第一課主務	
兵註空二機密第一ノ何號	發動機、プロペラ並ニ其ノ關聯兵器	第二部第二課主務	
兵註空二第二ノ何號	射撃、火工兵器並ニ其ノ關聯兵器	第三部第二課主務	
兵註空三第二ノ何號	爆撃、化學兵器並ニ其ノ關聯兵器	第三部第三課主務	
兵註空三機密第三ノ何號	雷撃兵器並ニ其ノ關聯兵器	第四部第一課主務	
兵註空四第一ノ何號	機雷並ニ其ノ關聯兵器	第四部第二課主務	
兵註空四機密第二ノ何號			

○感 狀	
兵註空五第二ノ何號	無線兵器並ニ其ノ關聯兵器
兵註空五機密第二ノ何號	
兵註空五第三ノ何號	電氣兵器並ニ其ノ關聯兵器
兵註空五機密第三ノ何號	
兵註空六第二ノ何號	計器、磁探並ニ其ノ關聯兵器
兵註空六機密第二ノ何號	
兵註空六第三ノ何號	光學、寫真並ニ其ノ關聯兵器
兵註空六機密第三ノ何號	
兵註空七第一ノ何號	發着、基地兵器並ニ其ノ關聯兵器
兵註空七機密第一ノ何號	
兵註空七第二ノ何號	車輛並ニ其ノ關聯兵器
兵註空七機密第二ノ何號	

感 狀

横須賀鎮守府硫黃島陸上防備部隊
第三航空艦隊東第二空襲部隊

右ハ海軍少將市丸利之助指揮ノ下ニ硫黃島ヲ基地トシテ熾烈ナル敵ノ砲爆撃ニ抗シ中部太平洋方面就中「マリヤナ」方面ニ對スル敵航空襲滅作戦ニ從事シ敵B29其ノ基地ニ於テ擊摧シ之ヲ本土空襲ヲ抑制スルト共ニ所在陸軍部隊ト協同シ硫黃島ノ防備

強化ニ邁進セリ

昭和二十年二月十九日空母十數隻ヲ基幹トスル敵艦隊ノ支援下ニ敵攻略部隊上陸スルヤ所在陸軍部隊ト渾然一体トナリ我ニ數倍スル敵ヲ敢然トシテ邀撃シ倏烈言語ニ絶スル敵ノ砲銃爆ニ曝サレツツ連日晝夜ニ亘ル猛反撃ヲ敢行シ彈藥盡クルヤ肉彈突撃ニ轉ジ一死十殺以テ敵ニ甚大ナル損害ヲ與ヘ數次ニ亘ル敵増援兵力モ之ヲ戰力ノ大半ヲ喪失セシメ今尙同島ノ北半ヲ確保シ毅然トシテ皇土護持ノ嵩高ナル犠牲的信念ニ徹シ有ユル困難ヲ克服シテ勇戰敢闘シツツアルハ其ノ武功拔群ナリ

仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和二十年三月七日
聯合艦隊司令長官 豊田 副武

○雜 款

軍極秘内令提要追録第九號(三月十五日現在)四月二十一日發送濟ニ付受領セバ直ニ加除整理ヲ施行シ至急受領票送付相成度

(海 軍 省 副 官)

○有線電話(祕話裝置)ニ關スル件

本府海軍省用祕話裝置完成致候條自今本府有線電話通信規程第十四條ニ依リ使用相成度

追テ本電話使用ノ際ハ警備府交換ヲシテ海軍省一番線ニ接続

祕海軍公報第 四九九七號 昭和二十年四月二十八日

セシメラレ度

(大 湊 警 備 府)

本船第二氷川丸ト命名以來氷川丸ト誤謬サレ易シ本船宛通信連絡ニ關シテハ氷川丸ト混同セザル様特ニ御注意相成度

(特設病院船第二氷川丸)

○事務所撤去

事 務 所 名	撤去月日	記 事
海防艦波太艦裝具事務所	四月七日	
關送艦夏月艦裝具事務所	四月八日	

○大湊ニ轉勤ノ際家族移轉ニ關スル件

大湊町及隣接町村ハ管下各部隊廳ノ擴充ニ伴ヒ住宅極度ニ拂底シ居ル狀況ニ付自今當方面ニ轉勤ノ際ハ豫メ轉勤先ニ連絡官宿舎決定ノ上家族移轉ノコトトセラレ度

(大 湊 警 備 府)

○正誤

四月五日附祕海軍公報第四九七六號令達欄海軍戰時特例給與規則中改正第二條ノ四第三號中「三十回」ハ「二十五回」ノ、四月十八日附同第四九八八號令達欄海軍應徵船員給與規則第八條及第二十六條中「應徵船員」ノ下ニ「海軍ニ配屬セラレタル者ニ限ル」ヲ脫ス同第一表中「沿岸區域」ハ「沿海區域」ノ、同

四五三

秘海軍公報 第四九九七號 昭和二十年四月二十八日

四五四

第六表備考第二號中「在リテ一食ニ付」ハ「在リテハ一食ニ付」
ノ孰モ誤

○本日軍極秘海軍公報第一二二二號（乙配付）發行セリ

配付先

關係各司令部、横須賀、吳、佐世保、舞舞各海軍人事部、
吳海軍工廠、關係各警備隊、第十一、川棚各突撃隊、關係
各學校

1267